

第Ⅳ章 大阪市の生涯学習の未来像

1 基本理念「つながり、支え合い、共に育つ生涯学習」の推進

今日の社会では、人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの変化や、家庭・市民・子どもに関わる課題の多様化、また、感染症や災害など社会状況の急激で大きな変化により、未来が予測困難な社会となっています。中でも、新型コロナウイルス感染症の影響により社会的格差がますます拡大し、深刻化していると言われます。社会的格差は、必ずしも所得や経済状況だけでなく、教育、情報など様々な場面で現れます。

そのような厳しい社会状況の中で、市民が主体的かつ継続的に生涯学習を続けるに当たっては、これまで学びの機会が得られなかった人への学び直しとエンパワーメント、そして生涯学習につながっていなかった人に届くようなアウトリーチ¹³的支援が重要です。

多様な当事者がお互いに認め合い、社会的に弱い立場にある人々をも含め、市民一人一人が誰も排除されず、全員が社会に参画する機会を持つことを意味する「多様性(ダイバーシティ)と包摂性(インクルージョン)¹⁴」の視点に基づき、社会の対等な構成員としてそれぞれの主体性を発揮できる、「人生100年時代」に相応しい生涯学習の在り方を模索していく必要があります。平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」は、令和12(2030)年までに、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現をめざすため、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むものです。17の開発目標(ゴール)が定められており、そのうち「目標4 質の高い教育をみんなに」に関しては「全ての人々に包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」とされています。その目標達成をめざし、これまで生涯学習に結びつきの薄かった層のニーズ喚起も含めて「誰一人取り残さない」生涯学習の推進を図ります。さらに生涯学習活動は、「目標11 住み続けられるまちづくりを」をはじめ、開発目標17のゴールの多くに関連し、それぞれの目標をつなぐものであることから、様々な課題に向かう市民の学びとの連携・協働を通じて、持続可能な社会の形成に寄与します。

第4次生涯学習大阪計画では、「つながり、支え合い、共に育つ生涯学習」を基本理念とし、これまでの生涯学習の考え方(1ページ参照)を継承したうえで、「生涯学習」とは「多様な全ての市民一人一人が、誰一人取り残されることなく、その生涯にわたって、あらゆる機会にあらゆる場所で自らに適した手

¹³ アウトリーチ…「支援が必要であるにもかかわらず届いていない人、自ら支援を求めるのが難しい人に対し、積極的に働きかけて情報・支援を届けるプロセス」を意味する。学習要求を持っていない人たちも、学習に参加できるよう、学習要求や学習行動を誘発しようとする活動。

¹⁴ 包摂性(インクルージョン)…「包摂」とは包み込むこと、排除・除外しないことの意味であり、本計画においては「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)の意味で用いている。

段や方法で学ぶことができ、心豊かな人生を送ることができること。また、「市民力¹⁵」を身につけ、学びや活動の成果を活かすことにより、ひとやまちとつながり、支え合い、共に成長していくこと。」とします。



図6 SDGs 17の目標

2 めざすべき未来像

第4次計画では、令和12(2030)年以降の社会を見据え、市民一人一人の自発的な学びを支えるとともに、「市民力」を身につけ、学習した成果を社会に還元できるよう、2つのめざすべき未来像を掲げます。

(1) 誰もが主体的に学び続け社会に参画できるまち

「ひと」が生涯を通じて学び続けるための生涯学習として、主に「個人」に着目しています。

SDGsに謳われているように「誰一人取り残さない」生涯学習をめざし、これまで学習から疎外されてきた人や、社会的に弱い立場の人、支援を必要とする人の学びを支え、エンパワメントを図るとともに、多様性(ダイバーシティ)と包摂性(インクルージョン)の観点に基づき、全ての人の人権が尊重される社会の形成をめざします。

また、人生100年時代においては、従来の教育→仕事→引退の「3ステージ型」人生から、複数のキャリアや活躍の場を持ち多様な人生を歩む「マルチステージ型」人生への移行に伴い、全ての人がどのライフステージ¹⁶においても主体的に学び続け、心豊かな人生を送ることができる社会をめざします。近

¹⁵ 市民力…市民一人一人が身近な問題について主体的に考え、ともに解決にあたるという、自律し連帯する力のこと。

¹⁶ ライフステージ…誕生、就学、就職、結婚、出産、退職等、人生の中で重要な出来事によって変化するステージのこと。

年では個人の生き方が多様化しており、一人一人生涯の過程は様々であることから、ライフコース¹⁷という概念が用いられるようになってきました。本計画では施策の方向として、子ども・青少年、成人、高齢者のそれぞれの学びについて「ライフステージに応じた生涯学習支援」として、「ライフステージ」を用いていますが、多様性の観点で「ライフコース」の考え方についても尊重するものです。

また、大阪の子どもたちが、育った環境に左右されず、主体的に学びに向かう意欲を、学校と地域、多様な主体の連携・協働により社会総がかりで育むことをめざします。

さらに、いつ起こるか分からない感染症や災害をはじめとする身近な問題に対して、市民一人一人が主体的に考え、他者と協調しつつ適切に対処できる「市民力」の育成を図ります。

(2) 多様な市民が支え合い共に生きるまち

支え合い共に生きる、まちづくりのための生涯学習として、「人と人との多様なつながり」に着目しています。

本市では、学校を核として、教育的な視点から地域住民のつながりを育む「教育コミュニティづくり」を進め、本市独自の地域生涯学習の推進を図ってきました。この「教育コミュニティづくり」を一層充実させ、地域と学校の協働を推進していきます。

感染症などによる厳しい社会経済状況や予測困難な社会の急激な変化の中で、市民が共に困難を乗り越え対応していくためにも、「見守り」「声かけ」「手助け」などを通して他者と緩やかにつながり、支え合う、安心できる居場所づくりを進めます。

そして支えられ、安心できる居場所を得ることによって、「支えられる側が、支える側へ」つながるような「学びの循環」を促進し、多様な主体の連携・協働によるつながりづくり、いわゆる「新しい公共」¹⁸を担う人づくりを進めます。

そして、「市民一人一人の生きがいがづくりや自己実現としての生涯学習」とともに、「つながりづくり、豊かな社会づくりに資する生涯学習」をめざします。

3 最重要目標

第4次計画では、めざすべき未来像の実現に向け、次の2つの指標を最重要目標とします。この2項目については、理念を共有する「大阪市教育振興基本計画」と同じ目標としています。なお、第V章の9つの施策の内容ごとにも成果指標を設定しており、目標達成に向けて各取組を進めます。

¹⁷ ライフコース…生き方が多様化する中で、従来の平均的な人の一生をモデル化したライフサイクルや標準的なステージ設定ではなく、個人がたどる生涯の過程、道筋を指す。

¹⁸ 「新しい公共」…これまで行政が担ってきた公共的なサービスや、行政だけでは解決が困難であった課題に対し、教育、子育て、まちづくり、防犯・防災、医療・福祉、環境、雇用、国際協力等の身近な分野において、行政だけでなく、市民やNPO法人、企業等が主体となり、共助の精神で取り組む仕組み、体制、活動などをいう。

項目	現状値	目標値 (令和7(2025)年度)
<p>[めざすべき未来像(1)]</p> <p>現在、またはこの1年間のうちに、一定期間継続した生涯学習活動を行ったことがある市民の割合</p> <p>【本市調査(民間を活用したネット調査)】</p>	<p>30.6%</p> <p>(令和2(2020)年度)</p>	<p>38%</p>
<p>[めざすべき未来像(2)]</p> <p>「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」に対して、肯定的に回答する小中学校の割合</p> <p>肯定的回答…「①よく行った」と「②どちらかといえば、行った」回答のことをさす。</p> <p>【全国学力・学習状況調査】</p>	<p>小学校 73.2%</p> <p>中学校 63.4%</p> <p>(令和3(2021)年度)</p>	<p>小学校 85%</p> <p>中学校 77%</p>